



洛風だより・ほかほか通信 ～保護者のみなさまへ～

修学旅行を終えて

先週、3年生の一大行事である修学旅行を無事に終えました。
「29人29色のBest Memories～仲間と自然とうどん～」
が今年のスローガンでした。生徒たちは、スローガンどおりに修学旅行を成功させました。その成功の秘けつとなった三つのことをお伝えしたいと思います。



かずら橋の足元です。ドキドキです。今回、大人ほうが、足がすくんでいたようです。最終日、みんなに勢いがありました。

「自分で決めてチャレンジできる！」

「何でもチャレンジできた！ととりあえず盛り上げた！ラフティングが楽しかった！」

修学旅行へ行くか行かないか、ラフティングはどうしよう、かずら橋はどうしようなど、一人一人に様々な葛藤があったと思います。しかし、最後には自分で決められたことが、一番に大事です。「やる」か「やらない」という結果より、自分が納得できるように考え抜き、折り合いをつけることに意味があります

例えば、かずら橋を渡ることは校長である私も、とても苦手です。足がすくみます。大丈夫とわかっていても体が勝手にちぢこまってしまいます。どうしようもありません。その「すくみ感」は人によって違います。あまりに不安が大きすぎ動けない時は、回避することもよいでしょう。また、なんとかできそうかなと思う時には、まわりから温かく見守られていると感じることが、一歩を踏み出す力になってくれると思います。

「仲間がそこにいると感じられる！」

「あまりしゃべらない子の笑顔をたくさん見られた。そばにいてくれた子、特にありがとう！支えになりました。」「一緒にいてくれた友達にありがとうございます！」

何かにチャレンジできたり、あるいは回避できたり、より良い選択ができるため大切なことは、周りの人達との関係性が大きく影響します。励ましの眼差し、言葉がある。心配を受け止めてくれる。そういう安心感がとても大事です。洛風の生徒たちも中学生なので、全くトラブルがないわけではありません。しかし、仲間や先生を気遣う場面をよく目にします。特に今回の修学旅行では仲間の存在を感じたのではないかと思います。

「何よりも楽しむことができる！」

「どれも楽しかったし、みんなと一緒に楽しんでたり、笑ったり話したりして、仲が深まった。今回の修学旅行でいろんなことを学んで体験して、成長することができたので、行ってよかったです。」

スローガンにあるように「29人29色…」という生徒たちの思いが実現していたと思います。「こうでなければならない」「ちゃんとしなければ」「上手くできなければ」ということに縛られることなく、「自分らしく、一人一人が楽しめる修学旅行」だったことが何よりも良かったと思います。また、「結構な人数で旅行に行つたけど、けじめをつけて、めりはりもあったりで、楽に楽しめた。」「いい思い出になった。みんなが個性的だった。ガマンする力がさらについた。」という感想もありました。「楽に楽しむ」には、一人一人が勝手なことをすることではないことちゃんとわかっています。素晴らしい生徒たちだと思います。

修学旅行の最後にバスの中で「多くの人の支えの中で、たくさんの出会いができたことに感謝してほしい」と生徒たちに言いました。でも、生徒たちは十分にわかってくれていると思います。私こそ、生徒、教職員スタッフ、旅行でお世話になった人たち、保護者の方々、みなさんに感謝の気持ちで一杯です。

お知らせ

9月24日(木) 授業参観・進路保護者会
9月30日(水) カウンセラーを囲む会

生徒の俳句や短歌、習字、図書紹介などの作品が展示されています。ぜひ参観いただき、ご覧ください。